



とうえい

令和4年9月9日
東栄小学校
学校だより第5号

未来を生きる大きな力！

木の葉のそよぎに少しずつ秋を感じる頃となりました。甲子園球場で行われた夏の高校野球では、選手たちのひたむきなプレーに心を動かされ、一瞬一瞬のプレーに全てをかけている姿に感動しました。2006年、早稲田実業高校のエースとして夏の高校野球を制した元プロ野球日本ハムの斎藤佑樹さんが今年の大会で始球式を務めました。斎藤佑樹さんの高校球児に宛てて書いた手紙を紹介します。〈日本郵便「夏のお手紙キャンペーン」より一部抜粋〉



ー この夏にすべてをかける君へ ー

・・・その夢はきっと叶うよ。とは、僕は言いません。勝負はわからないから。同じ夢をもった人たちのぶつかり合いだから。ただ、今のまっすぐな君のまま、どうかこの夏のマウンドに立ち続けてください。グラウンドでもグラウンド以外でも、君をいろいろな出来事が待ち受けています。僕のように不安だらけの時期を過ごし、挫折を味わうこともあるかもしれません。それでもなんとか前を向くために必要なもの。それは、記憶だと思います。過去の栄光だなんて言われることもあるけれど。最後まで闘い抜いた記憶は、未来を生きる大きな力になります。・・・

栄光も挫折も味わった斎藤佑樹さんの言葉は、グッと心に染みしました。試合後のインタビューでは、ほとんどの高校球児が「甲子園での試合でも、普段の練習でも全力でプレーしているので悔いはありません」と述べていました。某高校の監督は「勝っても負けても闘い抜いた経験はブレない自信となり、その後の人生に自分の心の支えとなっていくと思います」と述べていました。

学校生活においても、子どもたちは様々な成功体験や失敗体験をします。将来にわたって、子どもたちが成功体験だけをするのは難しいと思います。体験したことをどのように解釈し、解釈した結果をこれからの人生にどのように活かしていくのかが大切です。私たち大人も「あのときの失敗があったからこそ、結果的に成功することができた」という経験もあるのではないのでしょうか？最も大事なものは、成功したかどうかではなく、一生懸命取り組むこと、楽しみながらやり遂げることなどの体験を通して培ったブレない自信が、未来を生きる大きな力になると思います。

～いいところみつけの旅 その5～

校長室横の小会議室には、自主参加である夏休みの作品（ポスター、習字、作文、自由研究など）がたくさん並んでいます。どの作品を見てもよく工夫されており、「自分からすすんで心ゆくまで挑戦したんだなあ」と感心しています。がんばったみなさんへ金メダル！

(校長 井田 寿)